愛知県職業能力開発審議会議事録

1　日時

平成 29 年２月 24 日（金）午後２時から午後３時 30 分まで

2　会場

愛知県自治センター５階研修室

3　出席者

［出席委員　12 名］

小椋和夫、乙部百合香、菅原俊彦、堤一宏、松原智秋、猿渡智佐登、
廣田信之、本田勝久、丸山洋子、木村徹、西島保、山岸敬子（敬称略）

［欠席委員　３名］

福田和仁、加藤容子、高綱睦美（敬称略）

［事務局　８名］

産業労働部労政局長 間所陽一郎、産業労働部次長 森田利洋、
産業労働部労政局就業推進監 吉田和裕、産業労働部労政局産業人材育成課長
日高啓視、同課主幹 大嵜みどり、同課課長補佐 西山透、
同課主任主査 酒井和幸、同課主査 大西玄一郎

4　議題

第 10 次愛知県職業能力開発計画の進捗状況について

5　審議内容

事務局から出席状況の報告を行い、本日の審議会が有効に成立していることを確認した後、会長以外の議事録署名人として小椋委員が指名された。その後、事務局が第 10 次愛知県職業能力開発計画の進捗状況について、資料１及び資料２に基づき報告した。

（質疑等）

委　　員：目標数値は概ね達成できそうだという報告でしたが、数点、要望したいと思います。まず、中小企業等への産業人材育成連携コーディネーターによる支援についてです。中小企業では労働安全衛生法の改正などへの対応が進んでいない状況であり、特にストレスチェックなどへの対応は難しい課題となっています。コーディネーターにはそうしたところにきめ細やかな支援をお願いしたいと思います。次に、モノづくり現場への女性の参画に関する事業についてです。職場見学のバスツアーなどを実施されたということですが、以前学生がなかなか集まらないという話をお聞きして心配しておりました。今後とも関係各方面への周知や広報活動に努めてもらいたいと思います。３つ目は、関係機関の連携強化に関連しますが、キャリア教育などについては労働組合としてもご協力できますのでよろしくお願いします。

委　　員：ポータルサイトの「ひと育ナビ・あいち」は、フェイスブックやツイッターなどの更新頻度も高く、良いと思いますが、トップページのビュー件数が伸びていません。例えば、学校や先生と連携するなどの取組が必要ではないでしょうか。今後どのようにして件数を増やしていくのかお聞きしたい。次に、モノづくり現場で働く女性のロールモデルの目標数値については、2,020 年までに 100 人とは言わず、もっと増やしていただき、女子学生がキャリアアップを考える上で役立つ多くの事例を発掘、紹介してもらいたいと思います。

事 務 局：「ひと育ナビ・あいち」を PR するパンフレットは、以前は１種類であったものを、中小企業向けと学生向けの２種類作成して、ターゲットをはっきりさせたＰＲに努めています。また、中小企業の方々だけでなく、商工会議所の相談員のように、中小企業との中間にいる人たちにもポータルサイトを見てもらいＰＲしていただくなどの取組を行っていきたいと思います。ロールモデルの目標数値については、100 人という数字にこだわらずに取り組んでまいりたい。

委　　員：グローバル化に対応する人材の育成を図るため、職業高校生がタイでの海外研修でインターンシップを実施したということですが、若いうちに外国人と触れ合うことはとても大事なことです。今後もこうした機会を増やしていってほしいと思います。また、現場の大変さを若い人に伝えていくことは企業にとって難しいことですので、企業 OB の熟練技能者を中小企業等に派遣する取組に引き続き力を入れていってほしいと思います。

委　　員：大学１・２年生、専修学校生を対象にモノづくり中小企業でのインターンシップを実施したということですが、受入企業数が 27 社ということで、今後はもっと企業数を増やしていってほしい。また、企業側の声も聞きたいものです。企業側の声を聞いて、そこを県として支援していくようなことができれば良いと思います。次に、人材育成・能力開発に向けた関係機関の連携強化に関連しますが、中小企業にとって女性、高齢者、中途採用者の人材育成は難しい課題ですので、どこかにノウハウがあれば共有していけるような取組も必要であろうと思います。

事 務 局：企業側の声は、今週末にインターンシップの報告会があるので、そこで詳しく伺う予定です。今回の事業では、受入企業をこれまでにインターンシップを受け入れたことがないところに限定しましたので、企業側が二の足を踏んだという事情があります。これに対しては、コーディネーターが受入モデルをお示しなどして対応しました。今後も受入企業に対しては、個別のサポートをきめ細かく行っていきたいと考えています。

また、来年度には、今年の実績を受けて成果などを紹介するセミナーを開催することとしています。

委　　員：産業人材育成連携コーディネーターが訪問した企業の意見や感想をポータルサイトに載せると中小企業の皆さんの参考になるのではないでしょうか。とにかくまずは、産業人材育成支援センターやコーディネーターの活動を企業に知ってもらう取組が重要だと思います。コーディネーターはどのようにして企業訪問を行っているのですか。

事 務 局：センターを立ち上げた今年度当初は、商工会議所などから紹介があった企業を訪問しました。現在は、訪問した企業がいろいろなネットワークを持っていますので、こうしたつながりを利用して訪問等を行っています。

委　　員：技能五輪を社員も見に行ったが、一生懸命取り組んでいる姿を見て、有意義だと感じました。また、発達段階に応じたキャリア教育の推進に関連して、キャリア教育コーディネーター活用事業において、４名のコーディネーターが活動しているとのことですが、この数は適当でしょうか。

事 務 局：この事業は、教育委員会が委託して実施しているもので、４人のコーディネーターが地区を分担してモデル校 16 校において、インターンシップの受入先やキャリア教育に関する社会人講師を開拓する取組を行っています。教育委員会としてはもっとやりたかったのですが、予算等の制約があって、まずは４人の態勢でスタートしたものです。

委　　員：モノづくり現場への女性の参画は今後ますます重要で、女性が参画できる環境を整えていくことが大切だと認識していますが、今後もこの分野に積極的に取り組んでいってほしい。また、若手技能者の育成支援については、町工場技能者コンクールの参加者の「基本に忠実であることを徹底して教えてもらい、参考になった。」という声にもあるように、若手技能者に対しては、ルール遵守やしつけの観点からの取組に力を入れていってもらいたいと思います。職業高校生がタイでの海外研修でインターンシップを実施したというのは、事前の計画どおりですか。また、今後の展開はどうなっていますか。

事 務 局：計画どおりです。この事業は今年度教育委員会が立ち上げたもので、来年度はベトナムでの実施を予定しています。

委　　員：技能五輪全国大会の２年連続開催、技能五輪国際大会の誘致に大変関心があります。特に２年連続の開催は大変であろうと思いますが、なかなか勝てない職種の強化等、がんばってやってもらいたい。

事 務 局：技能五輪の開催に当たっては、企業、業界団体の取組が第一だと考えていますので、国や職業能力開発協会などと一緒に、サポートをしっかりやっていきたいと思います。

委　　員：女性を対象にしたモノづくり現場へのバスツアー報告会に参加しましたが、数多くの女子学生が参加していまして、報告会でも女子学生のモノづくり現場への強い関心を感じました。また、モノづくり現場で活躍する女性の事例調査では、取材を受けた企業の側ですが、取材を受けた女性社員も大変喜んでいました。ＩｏＴのセミナーにも参加しましたが、生きた実例が紹介されており大変参考になりました。効果的な事業が実施されていると思います。

委　　員：高等技術専門校の見直しについては、中小企業支援の観点から機能強化するということで、大変期待しているところです。技能五輪については、国際大会が今年、ＵＡＥのアブダビで開催され、本県からも多くの技能者が参加します。こうしたことを積極的にＰＲしたり、応援したりすることから始めないと、技能五輪全体としてはなかなか一般の人には浸透していかないと思います。ぜひ積極的にＰＲして、2019 年、2020 年の技能五輪につなげていくようにしてほしい。また、若手技能者の育成支援に関連して、町工場技能者コンクールに参加するのは 36 人の技能者ではあるけれども、出場者の思いや感じたことを周りの見学者や応援する人たちに伝える取組をして、モノづくりを大切にする風土や機運が、全体として広がるようにしていってもらいたいと思います。

事 務 局：次回の国際大会に出場する皆さんについては、近く作成するポスターやチラシに写真を掲載する予定にしていまして、ＰＲになると考えています。また、町工場技能者コンクールでは、コンクールの隣で高校生が旋盤でコマを作って対戦する「コマ対戦」を実施して、高校生がモノづくりを実際に体験して、次代のコンクール出場選手を目指すきっかけとなるような取組も行っています。

委　　員：産業人材育成連携会議の委員からの意見にあるとおり、「中小企業だからこそできることはあるが、その魅力を企業は発信できていない。」ということを毎回この会議で聞きますが、どうしてうまくいかないか。また、技能五輪・アビリンピックは、小中学生にとってモノづくりに興味を持つよい機会ですので、例えば、見学を授業の一環として実施するよ

うなことはできないかと考えます。一般の人たちに裾野を広げる取組を行うことによって、全体としてモノづくりを応援していく体制づくりが大切だと思います。

事 務 局：中小企業の魅力発信については、ポータルサイトで紹介するとともに、インターンシップなどで現場を見てもらう取組を行っています。まずは、中小企業を知ってもらうことが大事だと考えます。また、技能五輪については、2014 年の全国大会開催時には、安城市が社会科見学を土曜日、日曜日で実施しました。次回の 2019 年、2020 年においても、こうした取組を広げていくようなことができればと考えています。

委　　員：経済産業省が第４次産業革命ということで人材育成にも言及しているが、第 10 次愛知県職業能力開発計画と第４次産業革命の話はリンクしているのか。

事 務 局：経済産業省のものは、ＩｏＴとかＡＩという流れの中で、どういう産業を伸ばしていくのかといったものであると思われるが、そういった意味では、県の産業振興プランと連動する。職業能力開発計画の上位計画としてあいち産業労働ビジョンがあるが、その中には次世代産業の育成等としてＩｏＴ等に言及しているので、直接連動はしていないが、同じ方向を向いたものとなっている。